

第 6 回伊那市誌編さん委員会議事録

開催日時	令和 3 年 12 月 20 日（月） 9 時 33 分～11 時 55 分
場所	伊那市役所 502 会議室
出席者	編さん委員：13名 事務局：教育次長、市誌編さん室長、担当、（教育長欠席）
会議目的	部会の報告及び、令和 4 年度の予定、表記統一、概説編の呼び方、市誌の基盤として捉える「伊那市の特質」について協議するため。

【内容要旨（決定事項・検討事項等）】

- ① 表記の統一方法として、構成方法・年号と単位の記載方法・文体について共有した
- ② 令和 4 年度の予定として、新たに「編集会議」を設ける
- ③ 資料事項「令和 4 年度の計画（会議開催・予算）」に関する意見等について、事務局は対応をとる
- ④ 概説編の呼び方、市誌の基盤として捉える「伊那市の特質」について意見を求めた
- ⑤ 概説編の名称変更については、次回検討する
- ⑥ その他、編さん委員会または事務局が対応をとる事項

【会議内容】（討議、意見交換等による決定事項・検討事項の詳細）

- ① 表記の統一方法として、構成方法・年号と単位の記載方法・文体について共有した
執筆段階に入っている委員がいるため、表記の統一方法について協議を行った。

なお、表記の統一は、「書籍としての親しみやすさを図る」「出版物としての品質やトーン&マナーを維持する」「後の校正を不備不足等なくスムーズに進める」「読者対象に沿った、読みやすく理解しやすい内容を記述する」ために決まり事として設ける。

<構成、章立て>

前回委員会にて、章>節>タイトル>見出しという構成に決定していたが、下記のとおりに変更した。

例：第一章>1>（1）>①

- ・章には第を付け、漢数字を用いる。その他は算用数字を使用。（副委員長）
- ・「節」は、必要に応じて取り入れる。（副委員長）
- ・さらに細かく組み立てる際には、（1）、①を使用する。（委員）

<年号>

高等学校等の教科書や一般的な表記を参考にして検討を行い、下記の内容を共有した。

例：2022（令和 4）年

- ・「西暦（和暦）年」と、西暦>和暦>年の順に書く。
- ・和暦には丸括弧を用いる。

<単位>

読者にとっての見やすさや読みやすさを考慮して、下記の内容を共有した。

例：1ha、1m、1km、1g

- ・見やすさに加えてカタカナ表記は文字数が増えるため、横書きでは略号を優先する。
- ・縦書きを予定している民俗部会は、再度検討する。

<文体>

中学生以上の読者層を想定し、「ですます調」と「である調」のどちらを用いるか検討を行った。

- ・全委員に意見を求めたところ意見が分かれたため、状況を見ながら決定していく。
- ・執筆に入っている、または執筆に入る場合は、慣れた書き方で始めてもらうこととする。

② 令和4年度の予定として、新たに「編集会議」を設ける

統括会にて協議決定した「編集会議」について、全委員より了解を得た。

なお、編集会議は、部会間の課題を解決し今後の部会や工程をスムーズに進めるために部会長が集まる会議が必要であるとし設けることとなった。編さん委員会正副委員長3名と各部会長8名が集まる会議の名称を「編集会議」とし、令和4年度では主に項目の精査や部会間での項目調整等を行う。

③ 資料事項「令和4年度の計画（会議開催・予算）」に関する意見等について、事務局は対応をとる

下記3点の意見について、事務局は検討または遂行する必要がある。

◎検討事項

- ・シンポジウムや講演会などは、年1回開催できると良いと思う。その際に、取り組みの内容をアナウンスした上で開催し、各地区に入り込んでいけるようにできると良いのでは。調査に関係することを伝える企画にできると良い。(委員)

◎対応事項

- ・関係機関との連携については、まず学芸員との連携が必要である。学芸員との連携が十分であれば講演会や企画展による相乗効果を図ることができる。さらに、文化財審議委員会や「日本で最も美しい村」連合など、地域団体等とも連携できれば原稿も作りやすくなる。(副委員長)
- ・学芸員には、市誌のテーマに沿った企画展や講演会に入り込んでもらえると良いと思う。企画展等の予定がなければ学芸員に余分な仕事を増やしてしまうので、各施設で予定している企画展や講演会などを確認してほしい。(委員)

→上記2点の対応事項について、事務局は学芸員や各施設に進捗状況等の情報共有を行い、各施設が市誌編さんの状況を把握できるようにする。また、各施設の企画展等の計画について確認を行う。

④ 概説編の呼び方、市誌の基盤として捉える「伊那市の特質」について意見を求めた

概説編 2 冊の項目案について意見を集約し、次回委員会にて再度検討事項として取り上げる。

◎概説編 1「伊那市を鳥瞰してみよう」に関する意見等

・集落や宿場といった人が住む場所は湧水と関係している。第二章 3「水と生活」に、自然からの視点として「集落の治水（利水?）」というような項目があると良いと思う。（委員）

→一昨年、溜池の法律ができ防災の観点に加わった。伊那市でも溜池の調査を行っており、このデータが非常に面白い。溜池も加えて、水と集落の関係をまとめる。（副委員長）

・第九章 3「各地区の現在の様子」とあるが、調査を行うのか。民俗編でも地区の分館ごとに調査を行う予定であるため二重にならないか確認したい。（委員）

→例えば、高遠はどんな立地でどのような集落があり、世帯数はどのくらいで主な公共施設は何か、というような概観を考えている。（副委員長）

・第六章 1「指定文化財の件数とその特長」にある参考文献「文化財指定の表」は、文化編でも扱う予定だ。概説編は、詳しく知りたい時に文化編を読んでもらえるように、読み物的視点で誘導する内容が良いと思う。（委員）

→文化財保護法に基づいて、伊那市や長野県、国の指定文化財の件数を入れるよう程度の予定。概説編では要点程度に抑えて、細かいことは本編でまとめてもらうように考えている。（副委員長）

◎概説編 2「伊那市のなりたちをたどる」に関する意見等

・柱として「水・道・人」が挙げられているが、水なら水のない所をどのように克服してきたのかという視点も 1 つの考え方だ。東西文化の交差点として行われた文化や産業等の交流で得たものと伊那市特有の地形（自然）を関連付けて、「独特な文化を培ってきた伊那人」を表現できると良いのでは。また、分野別の冊子では概説編よりさらに細かくまとめ、概説編とリンクできる考え方をしていくべきだと思う。（委員）

・戦争と平和について取り入れることは非常に貴重だと思う。教育部会でも、戦争に関する事柄から発展して平和教育あるいは平和に対する取り組みがどうあるかということのを重要な項目として検討しているが、書き方に工夫が必要だと感じる。（委員）

⑤ 概説編の名称変更については、次回検討する

前回委員会にて、伊那市を鳥瞰する「概説編 1」を「概説編」、伊那市のなりたちをたどる「概説編 2」を「通史編」としてはどうかとの提案が挙がり今回協議決定する予定であったが、各概説編の内容についてさらに意見を集約してから決定した方が良いとして次回に持ち越すこととなった。

⑥ その他、編さん委員会または事務局が対応をとる事項

下記 3 点の意見について、今後の編さん委員会で検討を行う、または事務局で対応をとる必要がある。

- ・参考文献の記載は、文章中に※などを入れながら各ページ下に入れた方が良いと思う。専門用語の解説もページ下に入れるとすぐ見ることができ、読みやすいと思う。(委員)

→今後、こういった体裁についても統一を図っていく。(編さん委員会)

- ・市民の皆さんや施設に対して調査を行う際、口頭で市誌編さんに携わっていることを伝えるよりも、身分を証明する名刺やカードがあると良いと思う。また、先方が連絡を取りやすいよう、名刺やカードには編さん室の連絡先も記載してほしい。(委員、副委員長)

→編さん室の連絡先を含む記載内容とデザインは事務局で検討し作成する。(事務局)

- ・今後、市民の皆さんや関係施設等に協力していただくことになる。先方に依頼の連絡等を行う際に必要になる依頼状の作成を事務局にお願いする。(副委員長)

→次回委員会にて、ひな型を提示できるように準備する。(事務局)

【次回編さん委員会日程】

日時：令和 4 年 2 月 28 日（月）予定

場所：未定